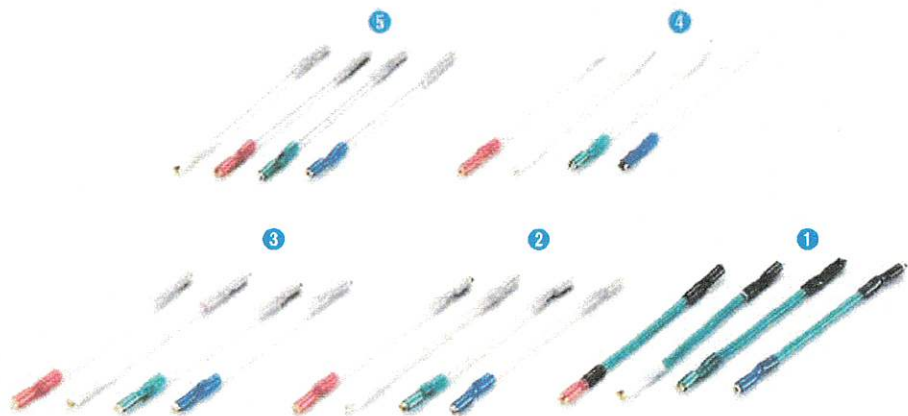


手作りシェルリード専門工房 KS-Remastaの

手頃なクラス5モデル聴き比べと
ハンダで付け直した付属品を体験Text by
炭山アキラ
Akira Tsukagawa
Photo by 田代法生

KS-Remasta



シェル付属のリード線(圧着接続、右)と、チップを切り離して半田付け(STDグレード、左)し直したリード線も比較試聴。その音の違いに驚嘆



試聴には、1997年発売のaudio-technica創立35周年記念のデュアルムービングコイル型カートリッジ「AT33PTG」(マイクロニア針、金蒸着ボロシムカンチレバー、PCOCC6Nコイル)と同シェル「LT-13a」を使用

①KS-LW-1800STD

¥6,600(税込)

●導体:海外製高純度OFC導体0.6mm 単線●ハンダ:KS-Remasta STDハンダ

②KS-LW-1800EVO.I

¥11,000(税込)

●導体:海外製高純度OFC導体0.6mm 単線●ハンダ:KS-Remasta EVO.Iハンダ

③KS-LW-9500EVO.II

¥11,000(税込)

●導体:PC-TripleC/EX導体0.41mm2撚り線●ハンダ:KS-Remasta EVO.IIハンダ

④KS-Stage221EVO.I

¥27,500(税込)

●導体:海外製高純度OFC鍍面加工導体0.6mm単線●ハンダ:KS-Remasta選定EVO.Iハンダ

⑤KS-VWS-Spirit.II/N

¥11,000(税込)

●導体:1960年代海外製ブラウンエナメル0.6mm単線●ハンダ:KS-Remasta選定N(ナチュラル、ニュートラル)ハンダ

<①~⑤まで全モデル共通>

●全長:約42mm(長さ100mmまで同一価格で製作可能)●チップ材質:金メッキ燐青銅●チップサイズ:カートリッジ側1.2mm、シェル側1.0mm、テーバー加工(シェル側1.2mmも同一価格で受注製作可能)

素材とハンダと加工技術を
徹底して磨き上げた音の魅力

KSリマスタのシェルリード
といえは我々アナログ愛好者
は、柄沢伸吾代表が丹精込めた
「研ぎ」の逸品に目を奪われが
ちだが、同社のリード線は1万

多彩な品揃えから選び出し
欲しい音が手に入る楽しさ

円内外にも驚くような実力の厚いラインアップを持つ。今回はそのレンジを軸に各種を聴く。
最初に耳慣らしで柄沢代表が面白い実験を用意してくれた。ヘッドシェル付属のごく普通のリード線と、そのチップと線を切り離し、再び柄沢氏がハンダ付けした個体の聴き比べだ。付属品は圧着式で、ハンダは同社STDグレードだ。付属品を聴くと、45回転盤なのにその旨味が半分は削がれてしまう。音が甲高く、馬力や厚みが出ないのだ。早々にハンダ版に換えると、高域の濁りが拭い去られ、最低域方向こそやや軽めだが、結構立派な音になって驚いた。

まず、廉価クラスの①LW-1800STDを聴く。ポップスは帯域バランスが整い、スピード感、量感ともアップ、声はグツと前へ出るが耳へ刺さらないのが好ましい。ジャズは見晴らし良く、楽器同士の間合い、タメをよく伝える。
続いて②LW-1800EVO・I。低域のアタックは締まってさらにハイスピード、しか

し声には血が通い、緩まずに音が寛ぐのが好ましい。ジャズはS/Nが向上、楽器がクッキリと粒立ち、ドラムスの切れが上がる。音楽が楽しくなる方向だ。同価格帯の③LW-9500EVO・IIに替えると、音が太くなり高域方向へ伸びる。単線から撚り線へ変わったためか、僅かな緩さも看取できる。これを好む人は多いのではないか。
ここで上位ランクの④Stage221EVO・Iが登場。単線で音が太く、ピシリと決まるフォーカスと声の厚み、エコーの深さを、ともにたつぷり描き出すのはさすがの風格だ。ジャズは楽器が高級になった感覚で、ピカピカ輝きながら有機的に融け合う演奏がたまらない。
最後にヴィンテージワイヤーの⑤VWS-Spirit.II/Nを聴く。R&Bの雰囲気描写は、これが一番。低域の太さこそまずまずだが、声のkokoro、リズムのタメが快感を誘う。ジャズは若干照明を落とした風合いで、文字通りジャジーな空気感を醸し出す。音色も帯域バランスもジャズ向けと言ってよいのでは。とは言えもちろん、かなり万能に楽しませられる。